世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

# 幼児における紙絵本・デジタル絵本経験と言語・社会性発達



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2022-04-14<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 今福, 理博, 五藤, 沙耶<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1808 |

# 幼児における紙絵本・デジタル絵本経験と言語・社会性発達

今　福　理　博　・　五　藤　沙　耶

絵本は家庭や保育・幼児教育施設に普及しており、近年は従来の紙絵本に加えて、技術の進歩によりデジタル絵本という新しい表現が生み出された。本研究は３～６歳の幼児と養育者を対象に、紙絵本とデジタル絵本の経験や養育者の読み聞かせ態度が言語と社会性にどのように関連するのかを検討することを目的とした。その結果、紙絵本の好感度と読み聞かせ頻度が高い幼児は集中力が高く、養育者の読み聞かせ態度が対話的・受容的であるほど幼児の言語・社会性が広く良好に発達していた。本研究は、養育者と幼児の読み聞かせという質的な側面が幼児の言語・社会性発達アウトカムと関連する可能性を見出し、絵本経験における養育者と幼児の相互作用の重要性を示唆した。

キーワード：幼児、紙絵本、デジタル絵本、養育者の読み聞かせ態度、言語、社会性

## 1. 問題

### 1.1　子ども達を取り巻く絵本の存在

絵本は、自治体が親に絵本を無料配布する事業であるブックスタートの推進などによって、生後早期から子どもの生活に密着している。また、図書館で地域の子育て支援センターで絵本を読むイベントが開催されるなど、子どもが絵本に出会う機会は増加している（秋田・黒木，2006）。

子ども達にとって、絵本は身近な存在であり、子どもを取り巻く遊びの一つとして注目すべきものである。絵本は、子どもが楽しめる遊びという面だけではなく、様々な面で子どもの発達に影響を及ぼすことを示す科学的知見が蓄積されつつある。

絵本の読み聞かせは、養育者を含む大人と子どもの相互作用を伴うものであり、言語や社会性発達を促進するものであると考えられる（e.g., Conway et al., 2018; Yaniv, Salomon, Waidergoren, Shimon-Raz, Djalovski, & Feldman, 2021）。乳児の言語（音韻）学習には、視聴覚教材や音声のみの録音よりも、対面での相互作用の方が効果的である（Kuhl, Tsao, & Liu, 2003）。

### 1.2　絵本と言語発達の関連

大人による絵本の読み聞かせを通じて、子ども達は絵本経験の中で、多様な言葉にふれる機会を多く得る。つまり、豊かな絵本経験は子どもの言語発達に影響を与えていると考えられる。

Robbins and Ehri（1994）は幼稚園児を対象に、二度同じ絵本を反復して読み聞かせた。読み聞かせ前に未知であった22の語彙について、読み聞かせ後にどれだけ習得できたかを検査した。

その結果、読み聞かせに登場した語彙は、登場しなかった語彙に比べて習得されていた。また、4 歳児を対象に、週に一度の読み聞かせを 10 週間継続した介入実験が長期的に行われた（Morrow, 1998）。この研究では、読み聞かせを受ける実験群と読み聞かせを受けない統制群に分けた。実験群には 3 冊の絵本について 3 度ずつ繰り返し読み聞かせを受ける群と毎週異なる本の読み聞かせを受ける群があった。10 週目のセッションで幼児が発する質問やコメントを分析すると、実験群は統制群に比べて、意味の詳細や解釈、物語の構造に関する複雑な発言が多かった。2 つの実験群を比べると、3 冊の絵本の読み聞かせを反復して受けた群の方が絵に対する発言が減り、文字に対する発言が増えた。つまり、大人から読み聞かせを受けることで、絵本の内容についてより詳細に理解することができ、また、反復して読み聞かせを受けることで、絵ではなく言葉により注意が向くと考えられる。

実際に、親子での絵本の読み聞かせの経験は、子どもの言語発達に関連することが実証されている。就学前に家庭で絵本の読み聞かせを多くしていた子どもほど、小学 1 年生と 3 年生の時に言語能力や読解力が高くなる（Sénéchal & LeFevre, 2002）。また、1 歳から 2 歳半の幼児に対する親の絵本の読み聞かせの量の多さは、親の社会経済状況や絵本以外の発話、子どもが読む本の質や絵本以外の発話の要因を調整した上で、子どもの理解語彙、読解力、読みへの動機の多さを予測した（Ece Demir-Lira, Applebaum, Goldin-Meadow, & Levine, 2019）。重要なことに、本を読むときに使われる親の言葉は、本を読むとき以外に使われる親の言葉よりも、語彙の多様性や構文の複雑さの点でより洗練されていた。これらの研究から、絵本の読み聞かせは子どもの言語発達に影響すると考えられる。

### 1. 3　絵本の社会性発達への効果

絵本の読み聞かせは、言語以外の発達にも寄与する。柴田・平野・後藤・大森（2019）では、保育士養成校の保育者志望学生 212 名を対象に、コミュニケーション能力、自己制御能力、絵本の読み聞かせに関する態度（「絵本への愛情度」「絵本の環境度」「読み聞かせ度」「絵本への熱中度」「子どもの頃の絵本への夢中度」）の関連を調査した。その結果、幼少期の絵本への熱中度、嗜好性、周囲に絵本好きの人がいる程度、絵本への夢中度が高いほど、コミュニケーション能力が高い傾向にあることが示された。

絵本は他者の心的状態に関連する内容を含む。就学前の子ども 47 名の親が、1 週間に子どもが読んだ本や読み聞かせをした本について、分析が行われた（Cassidy et al., 1998）。その結果、子どもの読む本には心的状態語（思う、欲しい、嬉しいなど思考、願望、感情、信念を表すのに使われる語）が 78％の本に、誤信念（自分と異なる他者の信念）が 34％の本に、パーソナリティの記述が 43％の本に含まれていた。向社会的行為を行う人物が登場する絵本の読み聞かせを経験した就学前児では、読み聞かせの後に向社会的行動が増加した（Larsen, Lee, & Ganea, 2018）。このことから、幼少期の絵本経験は、コミュニケーション能力や自己制御能力、向社会的行動などの社会性発達に関係している可能性があると考えられる。

さらに、絵本は大人と子どもの相互作用を導くコミュニケーションツールであり、絵本の読みあい遊びを繰り返すことで、4 歳児の発話量や読み手への働きかけ・スキンシップ、友達とのスキンシップが増加した（片桐・長谷川・福本・石川，2020）。

### 1.4　養育者の読み聞かせ態度

絵本を介した相互作用では、読み聞かせ時間という量的側面だけでなく、養育者の絵本の読み方や関わり方という質的側面も重要であると考えられる。例えば、絵本の読み聞かせ態度が知られている（村瀬，2009）。絵本の読み聞かせ態度は、「「これなに？」など、絵本に描かれていることについて、子どもに聞くようにしている」や「子どもが読んでほしいと言う時は、できるだけなんどでもくり返し読むようにしている」などの質問項目が対話的・受容的である養育者は、「やさしく話しかけるのがよい」、「まわりのものに親しみがもてるように話しかけるのがよい」という共感的ことばかけ志向が高い（村瀬，2009）。したがって、本研究は養育者の絵本の読み聞かせ態度にも焦点を当てる。

### 1.5　紙絵本とデジタル絵本による読み聞かせ

近年、タブレット端末を用いたデジタル絵本を読み聞かせる光景が見られるようになってきた。タブレット端末は指で容易に操作を行えるほか、形状や重量も手に取りやすく、乳幼児でも使用可能な形態となっている。デジタル絵本は幼児が独自のペースで頁をめくりながら読むことができる。

4～5歳児とその親を対象とした研究では、紙絵本は親が主導して読み聞かせが行われるのに対し、デジタル絵本は子どもが主体となり操作を行うケースが多く見られたという報告をしている（佐藤・佐藤，203）。また、3～5歳児において、紙絵本はデジタル絵本に比べて、物語の全体の流れの理解に寄与する一方で、デジタル絵本は紙絵本に比べて、各場面の映像の記憶に寄与する（藤後・磯友・坪井・坂元，2011）。

3～6歳児とその親を対象に、紙の本とデジタル本（本を電子化したBasic e-Bookとアニメーションや音楽、効果音などのマルチメディア機能を備えたEnhanced e-Book）を読み聞かせした際の、親子の行動や子どもの物語の理解について比較した（Chiong, Ree, Takeuchi, & Erickson, 2012）。その結果、親子の対話では、紙絵本とBasic e-Bookの場合は違いがみられないものの、Enhanced e-Bookの場合は物語と関係のない対話や行為が多く見られた。物語の理解でも同様の傾向がみられ、Enhanced e-Bookに比べて紙絵本とBasic e-Bookで、子どもは物語の詳細な部分までを記憶していた。2147名の子どもを対象とした43の研究をメタ分析したところ、マルチメディア要素を含むデジタル絵本の場合に、ゲームなどのインタラクティブ要素を含むデジタル絵本の場合に比べて、物語の理解や表出語彙の学習に効果があることが報告されている（Takacs, Swart, & Bus, 2015）。

以上より、紙絵本とデジタル絵本は、親子の相互作用や幼児の物語や言語にそれぞれ影響を及ぼす可能性が示唆されている。しかし、紙絵本とデジタル絵本の経験が、幼児期の言語・社会性とどのように関連しているのかについては知見が十分でない。

### 1.6　本研究の目的

本研究は3～6歳の幼児と養育者の103組を対象に、紙絵本とデジタル絵本の経験が言語（語彙理解、語彙産出、概念）と社会性（粘り強さ、自己制御、共感性）にどのように関連するのかを検討することを目的とした。紙絵本とデジタル絵本の経験や養育者の読み聞かせ態度は、幼児

にとっての言語入力の機会である。したがって、絵本経験が多くなり、養育者の読み聞かせ態度が対話的で受容的であるほど、幼児の言語と社会性の得点は高くなると考えられる。

## 2. 方法

### 2. 1　参加者

3 歳から 6 歳までの幼児（平均年齢 = 4.33 歳、標準偏差 = 0.87、男児 = 49 名、女児 = 54 名）とその養育者である幼児の母親（平均年齢 = 34.97 歳、標準偏差 = 4.56）の 103 組が本研究に参加した。幼児は満期産児であり、医学的な診断を受けている者はいなかった。質問紙には全て養育者が回答した。

### 2. 2　質問紙

#### 2. 2. 1　幼児の絵本経験

幼児の絵本経験について、家庭での子どもの絵本経験を明らかにする質問項目を横山・上野・長谷川・木村・石田・原田（2009）を参考に作成した。絵本の好感度は「お子さんの紙絵本に対する好感度はどれくらいですか」により、「まったく好きでない」～「とても好き」の 5 件法で回答を得た。絵本の読み聞かせ頻度は「どれくらいの頻度で紙絵本の読み聞かせをしていますか」により、「月に 1 回以下」～「毎日」の 5 件法で回答を得た。絵本の一人読み頻度は「お子さんはどれくらいの頻度で一人で紙絵本を読みますか」により、「月に 1 回以下」～「毎日」の 5 件法で回答を得た。家庭にある絵本の冊数は「ご家庭に紙絵本は何冊ありますか」により自由記述で回答を得た。

また、デジタル絵本を利用しているかの有無も尋ね、「はい」と回答した場合は、上述した質問項目の紙絵本をデジタル絵本に置き換え、同様に尋ねた。

#### 2. 2. 2　養育者の絵本の読み聞かせ態度

養育者（母親）の読み聞かせ態度について、子どもと一緒に絵本を見るとき、養育者はどのようにしているかを問う 10 項目を使用した（村瀬，2009）。「ゆっくり読むようにしている」、「声の調子を色々変えて読むようにしている」などの項目について、「全くそうしていない」～「よくそうしている」の 5 件法で回答を得た。得点が高いほど養育者は対話的・受容的な読み聞かせ態度であることを意味する。対話的・受容的な読み聞かせ態度は絵本を介した親子の相互作用の質に関連すると考えられるが、養育者と幼児の読み聞かせによる相互作用そのものを評価するものではない。

#### 2. 2. 3　幼児の言語発達

幼児の言語発達については、三宅（1991）の乳幼児発達スケール（kinder infant developmental scale: 以下、KIDS）の Type C の言語発達を尋ねる、理解語彙に関する 16 項目、表出語彙に関する 16 項目、概念に関する 16 項目をそれぞれ使用した。養育者には「はい」、「いいえ」の 2 件法で回答を得た。理解語彙、表出語彙、概念の下位尺度の得点を算出した。

#### 2. 2. 4　子どもの社会性発達

子どもの社会性発達については、粘り強さ、自己制御、共感性を測定した。粘り強さは、日本語版 Grit-S 尺度の 8 項目を使用し、根気に関する 4 項目と一貫性に関する 4 項目について、「当てはまらない」～「当てはまる」の 5 件法で回答を得た（西川・奥上・雨宮，2015）。根気と一貫性の下位尺度の得点を算出した。

自己制御はエフォートフルコントロール尺度によって測定し、「言われれば、新しい遊びに参加するのを待つことができる」などの行動抑制の制御に関する 6 項目と、「何かの稽古をしている時、それに集中するのに苦労している」などの集中力に関する 6 項目を使用し、「あてはまらない」～「あてはまる」の 5 件法で回答を得た（山形ら，2006）。行動抑制の制御と集中力の下位尺度の得点を算出した。共感性は Grazzani の共感性尺度の質問 13 項目を用いた（Grazzani, Ornaghi, Pepe, Brazzelli, & Rieffe, 2016）。質問項目について、それぞれの行動がこの 2 ヶ月間にどのくらい見られたかを質問し、「一度も見られなかった」～「いつも見られた」の 5 件法で回答を求めた。13 項目の回答を 3 つの因子（伝染（contagion）、他者の感情への注意（attention to the feelings of others）、向社会的行為（prosocial actions））に分類し、伝染、他者の感情への注意、向社会的行為の下位尺度の得点を算出した。

### 2. 3　倫理的配慮

本研究は武蔵野大学教育学部研究倫理審査委員会により承認されている（受付番号：R2-001）。倫理的配慮として、調査実施前に対象者に対して、①氏名や生年月日などの個人情報が外部に報告されることは無く、個人情報は研究者によって厳重に管理されること、②調査結果は研究終了後一定期間経過後に粉砕・破棄されること、③調査結果は研究のみに利用され、学会発表や学術論文として公表されること、④調査同意後に回答を辞めたくなった場合、辞めることは可能であり、一切の不利益が生じないことを説明した。また、参加者に同意を得た上で研究を実施した。

## 3.　結果

### 3. 1　養育者の読み聞かせ態度と幼児の紙絵本・デジタル絵本の経験及び言語・社会性の基本統計量

本研究の記述統計は表 1 の通りである。紙絵本で読み聞かせ家庭が 103 家庭中 102 家庭（99%）であり、デジタル絵本を使用する家庭が 103 家庭中 29 家庭（28%）であった。また、紙絵本で一人読みをしている家庭が 103 家庭中 88 家庭（85%）であり、デジタル絵本で一人読みをしている家庭が 103 家庭中 18 家庭（17%）であった。

**表 1　本研究の基本統計量**

| | 変数名 | *N* | 平均値 | 標準偏差 | 最小値 | 最大値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 紙絵本 | 1. 好感度 | 102 | 4.16 | 0.98 | 1 | 5 |
| | 2. 読み聞かせ頻度 | 102 | 3.56 | 1.19 | 1 | 5 |
| | 3. 一人読み頻度 | 88 | 3.42 | 0.96 | 1 | 5 |
| | 4. 冊数 | 103 | 45.81 | 51.01 | 0 | 300 |
| デジタル絵本 | 5. 好感度 | 29 | 3.41 | 0.95 | 1 | 5 |
| | 6. 読み聞かせ頻度 | 29 | 1.76 | 1.02 | 1 | 4 |
| | 7. 一人読み頻度 | 18 | 2.78 | 0.73 | 2 | 4 |
| | 8. 冊数 | 103 | 0.94 | 5.27 | 0 | 50 |
| 母親の読み聞かせ | 9. 読み聞かせ頻度 | 103 | 41.20 | 5.92 | 22 | 50 |
| 粘り強さ | 10. 根気 | 103 | 14.30 | 3.11 | 6 | 20 |
| | 11. 一貫性 | 103 | 10.01 | 2.77 | 4 | 16 |
| 自己制御 | 12. 行動抑制の制御 | 103 | 21.56 | 4.16 | 10 | 30 |
| | 13. 集中力 | 103 | 21.47 | 4.00 | 9 | 30 |
| 共感 | 14. 伝染 | 103 | 6.73 | 2.65 | 4 | 18 |
| | 15. 他者の感情への注意 | 103 | 14.30 | 4.09 | 7 | 25 |
| | 16. 向社会的行為 | 103 | 9.83 | 3.87 | 4 | 20 |
| 言語 | 17. 理解語彙 | 103 | 11.49 | 2.99 | 3 | 16 |
| | 18. 表出語彙 | 103 | 10.96 | 3.13 | 3 | 16 |
| | 19. 概念 | 103 | 10.92 | 3.24 | 0 | 15 |

## 3. 2　養育者の読み聞かせ態度と幼児の紙絵本・デジタル絵本の経験及び言語・社会性の関連

次に、変数間の関係を検証するために、順位相関分析を行った（表 2）。その結果、紙絵本の好感度と読み聞かせ頻度が高い幼児は集中力が高く（$r_{100}$ = .319, $p$ = .001; $r_{100}$ = .268, $p$ = .006）、紙絵本の冊数が多い幼児は行動抑制の制御と集中力が高かった（$r_{101}$ = .285, $p$ = .003; $r_{101}$ = .284, $p$ = .004）。デジタル絵本の冊数が多い幼児ほど行動抑制の制御が低く、伝染が高くなった（$r_{101}$ = −.230, $p$ = .020; $r_{101}$ = .226, $p$ = .022）。

**表２　変数間の順位相関係数**

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 紙絵本 | 1. 好感度 | − | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 読み聞かせ頻度 | .504** | − | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 一人読み頻度 | .347** | .369** | − | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4. 冊数 | .350** | .325** | .217* | − | | | | | | | | | | | | | | | |
| デジタル絵本 | 5. 好感度 | .272** | .086 | .046 | -.021 | − | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6. 読み聞かせ頻度 | .142 | .288** | .122 | -.018 | .176 | − | | | | | | | | | | | | | |
| | 7. 一人読み頻度 | .140 | .071 | .121 | -.047 | -.372* | .702** | − | | | | | | | | | | | | |
| | 8. 冊数 | -.017 | .030 | -.062 | -.099 | .059 | .440* | .470* | − | | | | | | | | | | | |
| 母親の読み聞かせ | 9. 読み聞かせ頻度 | .210* | .197* | .314 | .149 | -.050 | .103 | -.048 | .007 | − | | | | | | | | | | |
| 粘り強さ | 10. 根気 | .112 | .101 | .158 | .077 | -.092 | -.212 | -.002 | -.192† | .246* | − | | | | | | | | | |
| | 11. 一貫性 | -.047 | -.084 | .140 | .134 | -.168 | -.138 | .076 | .132 | .027 | .110 | − | | | | | | | | |
| 自己制御 | 12. 行動抑制の制御 | .179† | .170† | .106 | .285** | .105 | -.175 | -.237 | -.230* | .240* | .269** | .102 | − | | | | | | | |
| | 13. 集中力 | .307** | .273** | .068 | .284** | -.133 | -.025 | -.125 | -.077 | .256** | .467** | .284** | .563** | − | | | | | | |
| 共感 | 14. 伝染 | -.071 | -.005 | .112 | -.104 | -.118 | .066 | .396 | .226* | .206* | -.044 | .165* | -.123 | -.025 | − | | | | | |
| | 15. 他者の感情への注意 | .094 | .083 | .078 | -.041 | .188 | -.100 | -.190 | -.066 | .201* | .039 | .009 | .105 | .166† | .262** | − | | | | |
| | 16. 向社会的行為 | .100 | .129 | .054 | -.109 | .154 | .173 | -.163 | .102 | .237* | .134 | -.010 | -.058 | .123 | .285** | .547** | − | | | |
| 言語 | 17. 理解語彙 | .001 | .003 | .150 | .116 | -.040 | .337† | .117 | -.037 | .159 | .104 | -.058 | .164† | .214 | .106 | .049 | .205* | . | | |
| | 18. 表出語彙 | .118 | .139 | .160 | .169† | .042 | .191 | .090 | -.062 | .216* | .140 | -.045 | .205* | .245 | .180† | .160 | .312** | .735** | − | |
| | 19. 概念 | .152 | .031 | .101 | .170† | .132 | .331† | .260 | -.090 | .000 | .066 | -.117 | .177† | .045 | .079 | .085 | .117 | .468** | .621** | − |

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$, $^{\dagger}p < .10$

養育者の読み聞かせ態度が対話的・受容的である幼児ほど根気が高く（$r_{101} = .246$, $p = .012$）、行動抑制の制御と集中力が高く（$r_{101} = .240$, $p = .015$; $r_{101} = .256$, $p = .009$）、伝染と他者の感情への注意と向社会的行為が高く（$r_{101} = .206$, $p = .037$; $r_{101} = .201$, $p = .041$; $r_{101} = .237$, $p = .016$）、表出語彙が高くなった（$r_{101} = .216$, $p = .028$）。

## 4. 考察

本研究の目的は、3 ～ 6 歳の幼児と養育者において紙絵本とデジタル絵本の経験が言語（語彙理解、語彙産出、概念）と社会性（粘り強さ、自己制御、共感性）にどのように関連するのかを検討することであった。絵本経験が多くなり、養育者の読み聞かせ態度が対話的で受容的であるほど、幼児の言語と社会性の得点は高くなるという仮説は、一部支持される結果となった。

まず、紙絵本で読み聞かせ家庭が全体の 99％であり、デジタル絵本を使用する家庭が全体の 28％であった。このことから、ほとんどの家庭で紙絵本の読み聞かせをしており、およそ 4 家庭のうち 1 家庭でデジタル絵本の読み聞かせをしていた。また、紙絵本で一人読みをしている家庭が全体の 85％であり、デジタル絵本で一人読みをしている家庭が全体の 17％であった。およそ 7 家庭のうち 6 家庭で紙絵本の一人読みをしており、およそ 6 家庭のうち 1 家庭でデジタル絵本の一人読みをしていた。今回対象とした家庭の結果から、デジタル絵本に比べて紙絵本を使用する家庭が多く、ほとんどの家庭が紙絵本による読み聞かせをしていることが明らかになった。

幼児の紙絵本・デジタル絵本の経験と言語・社会性の関連では、紙絵本の好感度と読み聞かせ頻度が高い幼児は集中力が高く、紙絵本の冊数が多い幼児は行動抑制の制御と集中力が高かった。また、紙絵本に対する幼児の好感度と読み聞かせ頻度が高くなるほど、紙絵本の冊数が多く

なっていることから、紙絵本の冊数が多い家庭では、読み聞かせ頻度が高くなり、紙絵本に対する幼児の好感度も高い可能性が考えられる。このことは、紙絵本による読み聞かせが幼児の自己制御の発達に関連があることを示唆する。一方で、紙絵本とデジタル絵本の一人読み頻度と発達アウトカムに関連が見られなかったことから、幼児期は絵本の読み聞かせが発達において重要な役割を果たすと考えられる。

また、デジタル絵本の冊数が多い幼児ほど行動抑制の制御が低く、伝染が高かった。これは推測の域をでないが、デジタル絵本を多く所有している家庭の幼児はデジタル絵本による一人読みが多いことから、デジタル絵本の直接的な影響を強く受けていると考えられる。デジタル絵本の経験は、他者の指示に自分の行動を合わせることに関する行動抑制の制御に対するネガティブな関連要因となり、一方で他者の行動への情動的な反応に関する伝染に対するポジティブな関連要因となる可能性がある。

養育者の読み聞かせ態度と言語・社会性の関連では、養育者の読み聞かせ態度が対話的・受容的である幼児ほど根気、行動抑制の制御と集中力、伝染と他者の感情への注意と向社会的行為、表出語彙がそれぞれ高かった。また本研究の結果、対話的・受容的な読み聞かせ態度は、幼児の紙絵本の好感度、読み聞かせ頻度とポジティブな関連がみられた。このことから、養育者の対話的・受容的な読み聞かせ態度は、幼児の絵本への嗜好性や絵本読み行動に重要な役割を果たし、言語・社会性という発達アウトカムに広く関連を持つことを示唆した。

対話的な読み聞かせ態度は、語彙獲得に対してポジティブな効果をもたらす（Arnold & Whitehurst, 1994）。また、養育者の対話的・受容的な読み聞かせ態度は、共感的ことばかけ志向と関連する（村瀬，2009）。本研究はこれらの先行研究の結果と一貫しており、幼児がどのような絵本経験をしているのか、つまり、絵本経験の質的な側面である養育者と幼児のアイコンタクトや言葉のやり取り等のコミュニケーション、スキンシップを含む相互作用の重要性を示唆した。

本研究では、紙絵本・デジタル絵本の要因間（好感度、読み聞かせ頻度、一人読み頻度、冊数）に有意な正の相関関係が見られた。このことから、本研究のデータは信頼性のあるものと評価できる。また粘り強さの下位尺度（根気、一貫性）と自己制御の下位尺度（行動抑制の制御、集中力）との間に有意な正の相関関係が見られた。この結果は、幼児を対象とした先行研究と一貫しており、長期目標を達成するための粘り強さと目の前の欲求や願望を抑制する自己制御との関連を追試した（Imafuku, Saito, Hosokawa, Okanoya, & Hosoda, 2021）。

最後に本研究の限界点を論じ、今後の課題を検討したい。本研究は質問紙調査法に基づくものであったため、絵本経験において、例えば養育者を含む大人と子どもがどのように絵本を介して相互作用を行っているかについて詳細に検討するには限界があった。また、本研究は横断研究であり、絵本経験が長期的に子どもに及ぼす影響を検討することはできず、分析手法は相関分析を用いたため、要因間の因果関係が認められるかどうかについては検討の余地が残る。さらに、紙絵本とデジタル絵本の 2 種類の絵本に焦点を当てたが、デジタル絵本を使用する家庭のデータ数が少なかった。例えば、デジタル絵本の読み聞かせ頻度が高い場合に幼児の理解語彙や概念が高い傾向にあったため、デジタル絵本の読み聞かせにおける有効性は慎重に検討していく必要がある。今後の研究において上記の課題を明らかにすることで、絵本の読み聞かせ経験が子どもの発達に及ぼす影響について、より一層の理解が得られると考える。

**引用文献**

秋田喜代美・黒木秀子．（2006）．本を通して絆をつむぐ──児童期の暮らしを創る読書環境──．北大路書房．

Arnold,D.S., & Whitehurst,G.J.（1994）．Accelerating language development through picture book reading: a summary of dialogic reading and its effects. D. K. Dickinson（Ed.）Bridges to Literacy: Children, Families, and School（pp. 103-128）．Malden, MA.: Blackwell.

Cassidy,K.W., Ball,L.V., Rourke,M.T., Werner,R.S., Feeny,N., Chu,J.Y., Lutz,D.J., & Perkins,A.（1998）．Theory of mind concepts in children's literature. Applied Psycholinguistics, 19（3），463-470.

Chiong, C., Ree, J., Takeuchi, J., & Erickson, I.（2012）．Comapring parent-child co-reading on print, basic, and enhanced e-book platforms. The Joan Ganz Cooney Center at sesame workshop, NY.

Conway,L.J., Levickis,P.A., Smith,J., Mensah,F., Wake,M., & Reilly,S.（2018）．Maternal communicative behaviors and interaction quality as predictors of language develop- ment: findings from a community-based study of slow-to-talk toddlers.International Journal of Language & Communication Disorders, 53, 339-354.

Ece Demir-Lira,Ö., Applebaum,L.R., Goldin-Meadow,S., & Levine,S.C.（2019）．Parents' early book reading to children: ralation to children's later language and literacy outcomes controlling for other parent language input. Developmental Science, 22, e12764.

藤後悦子・磯友輝子・坪井寿子・坂元昂．（2011）．絵本の読み聞かせとビデオ絵本の視聴による物語理解．こども環境学研究，7（3），48-52.

Grazzani,I., Ornaghi,V., Pepe,A., Brazzelli,E., & Rieffe,C.（2016）．The Italian version of the Empathy Questionnaire for 18- to 36-months-old children: psychometric properties and measurement invariance across gender of the EmQue-I13. European Journal of Developmental Psychology, 14, 118-126.

Imafuku, M., Saito, A., Hosokawa, K., Okanoya, K., & Hosoda, C.（2021）．Importance of maternal persistence in young children's persistence. Frontiers in Psychology, 12:726583.

片桐正敏・長谷川茉奈・福本那奈・石川由美子．（2020）．絵本の読みあい遊びが子どもの言動に及ぼす効果について：市内 A 幼稚園における予備的検討．北海道教育大学紀要，70（2），99-109.

Kuhl,P.K., Tsao,F.M., & Liu,H.M.（2003）．Foreign-language experience in infancy: Effects of short-term exposure and social interaction on phonetic learning. Proceedings of the National Academy of Sciences, 100, 9096-9101.

Larsen,N.E., Lee,K., Ganea,P.A.（2018）．Do storybooks with anthropomorphized animal characters promote prosocial behaviors in young children? Developmental Science, 21（3），e12590

村瀬俊樹．（2009）．1 歳半の子どもに対する絵本の読み聞かせ方および育児語の使用と母親の信念の関連性．社会文化論集，5，1-17.

三宅和夫．（1991）．KIDS（キッズ）乳幼児発達スケール〈手引き〉（第 5 版）．発達科学研究教育センター，東京.

西川一二・奥上紫緒里・雨宮俊彦．（2015）．日本語版 Short Grit（Grit-S）尺度の作成，パーソナリティ研究，168

佐藤朝美・佐藤桃子．（2013）．紙絵本との比較によるデジタル絵本の読み聞かせの特徴の分析．日本教育工学会論文誌，37，49-52.

Sénéchal,M., & LeFevre,J.A.（2002）．Parental involvement in the development of children's reading skill: a five-year longitudinal study. Child development, 73, 445-460.

柴田長生・平野知見・後藤紀子・大森弘子．（2019）．幼児期後期における絵本の読み聞かせと，言葉の育ちを形成する背景に関する研究──保育者のコミュニケーション能力・自己統御能力に着目して──．臨床心理学部研究報告，12，3-20.

Takacs,Z.K., Swart,E.K., & Bus,A.G.（2015）．Benefits and pitfalls of multimedia and interactive features in technology-enhanced storybooks: a meta-analysis. Review of Educational Research December, 85（4），698-739.

山形伸二・菅原ますみ・酒井厚・眞榮城和美・松浦素子・木島伸彦・菅原健介・詫摩武俊・天羽幸子．

(2006). 内在化・外在化問題行動はなぜ相関するか──相関関係の行動遺伝学的解析. パーソナリティ研究, 15, 103-119.

Yaniv,A.U., Salomon,R., Waidergoren,S., Shimon-Raz,O., Djalovski,A., & Feldman,R. (2021). Synchronous caregiving from birth to adulthood tunes humans' social brain. Proceedings of the National Academy of Sciences, 118 (14).

横山真貴子・上野由利子・長谷川かおり・木村公美・石田晶子・原田真智子. (2009). 5 歳児の家庭における絵本体験の特徴──母親への質問紙調査から見る 3 年間の家庭での絵本とのかかわりの変化──. 教育実践総合センター研究紀要, 18, 23-32.